

# 平成16年度「基礎・基本」定着度調査の結果概要について

## 1 調査の概要

### (1) 調査の趣旨・目的

新学習指導要領において身に付けることが求められている基礎的・基本的な内容のうち、「読み・書き・算」等の基礎学力について、県全体の定着度の状況を調査した。

### (2) 調査の内容 … 学力調査及び意識調査

### (3) 調査の実施日 … 平成17年1月中旬

### (4) 調査の対象等 (県内すべての公立小・中学校に実施)

校種	学年	調査内容	実施校	児童生徒数
小学校	第5学年	国語,算数,社会,理科,意識調査	580校	17,458人
中学校	第1学年	国語,数学,社会,理科,英語,意識調査	270校	17,304人
	第2学年	国語,数学,社会,理科,英語,意識調査	270校	17,615人

\* 小学校は、県内594校のうち14校は第5学年に在籍者がいないため580校で実施

### (5) 調査結果の概要は、県内すべての学校及び市町村教育委員会等へ配付するとともに、指導方法の工夫改善の参考となる資料を作成し、県総合教育センターのホームページに掲載し、各学校の基礎学力定着の取組を支援する。

## 2 結果の概要

### (1) 学力調査の結果について … 各教科の結果と考察

#### 【国語】

		平均通過率
小学校	第5学年	86.5%
中学校	第1学年	75.6%
中学校	第2学年	81.7%

#### 【算数・数学】

		平均通過率
小学校	第5学年	81.5%
中学校	第1学年	64.8%
中学校	第2学年	62.9%

#### 【社会】

		平均通過率
小学校	第5学年	77.5%
中学校	第1学年	59.3%
中学校	第2学年	63.3%

#### 【理科】

		平均通過率
小学校	第5学年	76.9%
中学校	第1学年	63.9%
中学校	第2学年	56.9%

#### 【考察】

小学校は、全教科とも75%を超える平均通過率であるのに対して、中学校は、3教科で平均通過率が60%に満たない学年があり、「基礎・基本」の定着に対する一層の取組が必要な教科・学年があることがわかる。

平均通過率については、教科間の単純な比較はできないものの、定着の不十分な学年等、教科によって特徴がみられる。また、各教科とも中学校第1学年と小学校第5学年の平均通過率の差が大きいことから、学習指導における小・中学校の連携が今後一層重視される必要があることがわかる。

#### 【英語】

		平均通過率
中学校	第1学年	58.8%
中学校	第2学年	59.5%

### (2) 意識調査の結果について

#### ア 学校生活や家庭生活などに関する実態や意識の傾向より

「宿題はする」「宿題の他にも、自分で考えて勉強する」と答えた児童生徒の割合は、小5が80%、中1が70%、中2が60%を超えているが「1日の勉強時間は1時間より少ない」と答えた割合は、各学年とも50%前後もある。

#### イ 教科に対する意識の傾向より

算数・数学の授業で好きなこととして、最も高い割合を示しているのは、各学年とも「問題を解くこと」であり、最も低い割合を示しているのは、「自分の考えや答えを発表すること」である。「問題を解くこと」に対する意欲を生かすことや自分の考えを表現する機会を増やすこと等の工夫を取り入れた授業改善が大切である。